

黒豚たち続々分娩中です

9月に入ってから3頭の母豚が出産しました。バークシャー種の平均産子数は8頭といわれていますが、今月出産したうち2頭はその平均値を上回る産子数となっています。生まれた子豚の顔をみていると、どの子豚もみんな顔や肢の模様が違います。こういった違いを見比べられるのも、バークシャー種を飼育する楽しみの一つですね。



↓おでこに丸模様



↑寒さに弱いので保温箱で寝ます

生まれたばかりの子豚には、専攻生が新生子処置を実施しました。新生子処置とは、「雄判別」「体重測定」「牙切」「断尾」「鉄材投与」を行うことです。豚には生まれたときすでに、上下左右2本ずつ、計8本の牙状の歯が生えています。この歯が、母豚の乳頭を傷つけてしまうため、とがっている部分を切ります。また、断尾も、豚同士の「尾かじり」を防ぐためには必要なことです。子豚のために、手早く処置することが大切です。

母豚たちの様子を見てみると、母性が強く、子豚の面倒をよく見てくれています。分娩房では、母豚が意図せず子豚をつぶしてしまう、「圧死」という事故が起る場合がありますが、これまでの本校でのバークシャー種の分娩房での事故はゼロです。お母さんたちは子豚をつぶさないようにゆっくり座り、哺乳の時間になると優しく鳴いて子豚を呼びます。おかげで子豚はすくすく成長しています。

分娩と産子数

母豚名	産子数
ひび	11頭
ホル	6頭
でこ	9頭



第4回和牛甲子園まで、あと約3か月となりました。牛は、その肉付きの良さが目に見えるほど大きく成長しています。参加生徒は、オンラインでの体験発表に向けて、発表資料作りを始めています。がんばりましょう！

和牛甲子園まで

あと約3か月



専攻生のつばやき

担当：小川 寛刀

専攻実習の中では牛の除糞や豚の管理、飼料の用意や畜舎周りの環境整備など、幅広く行っています。当番実習では、3年生が中心となり、2年生を指導しながら豚の日常管理を行っています。豚熱などに気を付けながら動物の命を守っていくことはとても大変ですが、毎日やりがいを感じながら取り組んでいます。

